

——天明 茂「人生の脚本を書き換える方法」(みやざき中央新聞より)——

“うまくいっている経営者はなぜ、ご先祖を大切にしているのか?”

私は公認会計士として30年間、行き詰った会社の再建ばかりに携わってきました。

その中でいつも感じてきたのは、「一生懸命やっているのに、なぜあの会社はうまくいかないのだろう」

「なぜあんなにいい加減な会社がうまくいくのだろう」ということでした。

でもそれにはみんな原因がありました。それが「徳」です。

「積善の家に余慶あり」ということわざがあるように、徳の高い会社はしっかりいき、徳の少ない会社はなかなか難しかったりします。では、いったい誰がそれを決めるのでしょうか?

実は「DNA」です。言葉で聞くと、とても不思議だと思うのですが……。

歴代首相の指南役を務めた陽明学者・安岡正篤<sup>まさひろ</sup>先生が、アメリカ政府で行ったこんな調査結果を紹介していました。

たとえば、1700年代に活躍した神学者の初代ジョナサン・エドワーズさんの家系を調べると、1394人の子孫のうち、一流大学を卒業したのが1294人、大学総長が3人、大学教授が65人いました。

一方、1920年にニューヨークの片田舎に生まれたブライアンさんの家系を調べると、6代の間に生まれた1200人のうち、300人が赤ちゃんのときに死亡し、310人が収容所に入れられ、440人が不良、女の子の半数が売春婦でした。

安岡先生はこれらの事例を紹介しながら「この結果にも原因がある」と言いました。

それが「宿命」と「運命」です。

「宿命」とは、過去の徳や不徳がDNAに蓄積されたことによる定めのことです。

しかし、それは貯金のようなものなので、どんなに過去に徳がなくても、新たに徳を積んでいくことで、その「宿命のシナリオ」は変わるのです。

運命は「命を運ぶ」と書きます。天命・天職を見つけ、そこに自分の命を運びながら生きて徳を積むことで、「宿命」は「運命」へと変わっていくのです。

\*\*\*\*\*

私が大学の教師をやっていた頃、仙台でお菓子問屋を営んでいたある社長さんが奥さんと一緒に研究室に来られました。

「会社が赤字続きなので閉じたい。このまま続けていると人に迷惑をかけてしまうし……。どうしたらいいでしょうか?」というご相談でした。

「そう思うのなら閉じたらいいでしょう」と言うと、「は?」と驚いた顔をされました。

「閉じたくないんですか?」と尋ねると、

「いや閉じたいです。でも社員もいるし、在庫もあるし、本社もあって……」と。

そこで私は、「社長のお父さんはどんな仕事をしていましたか?」と尋ねました。

すると社長は「実父は戦争で亡くなったので分かりません。養父はパンの製造会社をやっていましたが、成果を上げられず潰してしまいました」と話されました。

今度は奥さんに、「お父さんはどんな仕事をしていましたか？」と尋ねました。

すると「仙台の中央通りで衣料品店を大きく経営していましたが、時代の波についていけず廃業しました」と話してくださいました。

それを聞いて私は「やっぱり会社は閉じたほうがいいですね」と言いました。

「会社を潰すことは家系における宿命のシナリオだ」と思ったからです。

しかし、ご夫婦はまだ納得いかない表情だったので、私は「お墓参りには行っていますか？」と尋ねました。

すると「もう5、6年くらい行っていません」と答えられました。

「どうして行ってないんですか？」と尋ねると、「忙しくてそれどころじゃなくて・・・」と言いかけて、「あっ！」と気付かれました。

そして社長はすぐに「行ってきます」と帰られました。

社長ご夫婦は3週間くらいして再びやってきて、「何かスッキリしました」と言って喜んで帰られました。その1年後くらいに、また社長が来られました。

そして「あの会社手放すことにしました」とうれしそうにおっしゃいました。

「いい会社に買収してもらえることになったのです。従業員付きで売掛金も在庫も社屋もそのまま使ってくれるそうで、願ったり叶ったりです」と。

そして半年後、社長はまた新たな事業を始められました。仙台駅前の薄皮鯛焼き屋さんです。

これが当たり当たって、10年経った今もお客さんが絶えないそうです。

夏場の閑散期でも、ずんだのアイス鯛焼きが大好評なのです。3年前に仙台の三越もお店を出しました。

最初に来られた時は「3人の娘たちがみんな縁遠く、誰も跡を継ぎそうにない」と話していましたが、その後、長女がお婿さんをお願い、立派な後継者になっています。

「上」が繋がったので、「下」も繋がったんですね。本当に不思議です。

\*\*\*\*\*

自分の家系を調べ、代々のご先祖が私たちのために数々のご苦勞の中を生き抜いてきたことに気付くと、誰でも「この命を何としても社会に役立てたい」との思いが募ります。これが「天命」です。そこから「宿命のシナリオ」が書き換わっていくのです。

「天命」は「看護師になる」「政治家として社会を変える」といった具体的な仕事が見える場合もありますが、漠然とした、しかし強い思いのことが多いのです。

この天命を具体的な仕事や職業という「天職」に結びつけるには、まず自分の「人生の中間決算」をして、親祖先から蓄積してきた徳や不徳を整理することです。その上で、「自分の長所をどんな社会的課題の解決に生かしていくのがふさわしいか」を考えることです。これで天職が固まります。

そうやって一人ひとりが天命を知って「自分はこれで生きる！」という天職に気付いて生きていくことが、本当の意味での一億総活躍社会だと私は思っているんですね。

